

民衆の  
声  
ボイス

No.91

# VOICEよこはま

公明党 横浜市会ニュース

http://www.yhkomei.com/ E-mail:shikai@yhkomei.com 公明党横浜市議員団 〒231-0017横浜市中区港町1-1 TEL.671-3023 FAX.681-2060



安価でおいしく、栄養バランスの良い給食へ。

「デリバリー型給食は、全国各地の自治体でも広く採用されています。県内では相模原市、藤沢市などで実施され、鎌倉市では8割以上の生徒が利用しています。」

教育長は、「給食に位置づけることで、横浜市が献立作成や食材調達を担うことになり、国産比率の向上や地産地消の推進など、食材の充実も図られる」との見解も示しました。給食化の実現で、横浜市の責任が明確になり、生徒や保護者の安心感につながり、さらに利用しやすくなることを期待されます。

公明党は、保護者や生徒の皆さまから期待の大きい中学校給食の実現について、横浜市の実情を踏まえて唯一実現可能な、ハマ弁を進化させた\*デリバリー型給食の早期の実施を提唱しています。ハマ弁のノウハウを活かしなら成長期の子どもたちにとって栄養バランスの良い昼食を、全員が食べやすい環境を作ることが、最善の選択と考えています。今回の予算代表質疑において、あらためて、デリバリー型の給食化の早期実現について強く要望し質問しました。林市長からは、「令和3年度からの実施を視野に入れて、早期に学校給食法上の給食に位置づけることを目指す」との答弁がありました。「横浜型中学校給食」の実現へ、大きく舵が切られました。



2月21日の予算代表質疑では、竹内康洋・公明党市議団団長(神奈川県選出)が、中学校給食の実現など市政の重要課題について、林市長らの見解を質しました。

## 「横浜型中学校給食」の実現へ前進!

昨年全国で発生した通学路などにおける自動車暴走による未就学児や児童・生徒の死傷事件を受けて、公明党の要望により令和元年度補正予算に緊急対策の予算が盛り込まれました。これにより、横浜市の緊急点検で対策が必要とされた368ヶ所について、車止めやガードレールの設置、あんしんカラーベルト塗装などが図られます。子どもたちの安全確保へ、着実な実施を促して参ります。



## 通学路の安全対策が前進!

長年にわたる公明党の取り組みにより、昨年4月から対象が中学3年生まで拡大された小児医療費助成について、更なる対象年齢の拡大と所得制限の撤廃を求めてきましたが、令和2年度予算では所得制限緩和の検討を開始することが明記されました。予算代表質疑では、林市長より「厳しい財政状況で、一律の所得制限の緩和は難しい状況ではあるが、より必要性の高い低年齢児を対象に実施していく」と、具体的な緩和内容について答弁がありました。

## 小児医療費助成の所得制限の段階的緩和へ



## アクションレポート VOL.2

# 横浜・瀬谷区に活力を!

HP <https://www.k-kubo.yokohama/> BLOG <https://k-kubo.jugem.jp/>

久保かずひろ政務活動事務所  
代表 久保かずひろ  
横浜市議員(瀬谷区選出)  
〒246-0021  
横浜市瀬谷区二ツ橋134-17  
Tel.045-298-6845  
Fax.045-330-6151

## 令和2年度予算特別委員会報告

### 環境創造局

## 旧上瀬谷の通信施設の公園整備に自然環境を

農地や樹林など、豊かな自然環境を公園整備にどのように活かすのかと考えをうかがいました。局長より、「周辺の豊かな自然環境と連担を図り、農地を含め、一泊楽しめるエリアを設けるなど、人が交流する郊外部の活性化拠点として発展させる」との答弁がありました。その上で、スポーツ施設や野球場の確保などを要望しました。



## 防災機能を旧上瀬谷の公園整備に活かせ!

周辺の自然環境とも連携し、調和する「防災機能」の強化の検討を進めるよう改めて要望し、副市長より「高い交通利便性や広大で平坦な地形をいかして発災時に全国から派遣された消防、警察、自衛隊などの活動拠点や、市民の一時的な避難場所などの整備を検討する」との明確な答弁があり、大きく前に進みます。

## 下水道管の耐震化が前進!

自身の阪神淡路大震災の被災経験から、被災者の安心した避難所生活や、災害時の重要な交通機能の確保は重要。それに不可欠な下水道管の耐震化事業の今後の展開を質問しました。局長より「災害時に下水機能を確保するため、地域防災拠点等の排水を受け持つ下水道管の耐震化を着実に進める。また、緊急輸送路は、マンホール浮上対策に続き、下水道管本体の耐震化工事を行い、さらに、郊外部の緊急輸送路でも耐震化の設計等に着手し、市民生活の安全安心を守るための取り組みを加速していく」との力強い答弁がありました。



下水道管の耐震化工事

## 温暖化対策統括本部

## 電気自動車等で災害時電力の確保を

昨年の停電時の電気自動車による給電の利用を踏まえ、次世代自動車による電力確保に関する今後の見通しを質問しました。本部長は「2030年度までに、すべての一般公用車を次世代自動車とする。交通局の燃料電池バスは、災害時の電源としての活用が期待されている。電気自動車、燃料電池自動車を電源として活用するために、外部給電器をさらに拡充していく」と答えて、災害時電力がより整備されます。

## 再生可能エネルギー電力のメニュー提示を

国連より気候変動がSDGsの達成を脅かしていると指摘され、喫緊の対応が求められる中、横浜市として積極的に企業や家庭に対しての再生エネ導入のメニューを提示すべきと提案しました。

## 資源循環局

## ごみ屋敷に「ふれあい収集」を活用

ごみ出しが、日々の生活スタイルとして習慣化できれば、再び「ごみ屋敷」になることを防げると考え、ごみ屋敷の再発防止策としても「ふれあい収集(玄関先等への収集)」を活用すべきと要望しました。

局長より「再発を防ぐためには、ごみ出しの習慣を身につけることも重要でふれあい収集は、有効な手立てだと考え、排出支援が終了した方に、ふれあい収集を積極的に取り入れる」との答弁を得ました。今までの収集対象は、ひとり暮らしの高齢者の方などが中心でした。今後は、「ごみ屋敷」の再発防止にも活用し、一歩進んだ取り組みとなります。



# 政務活動最前線

## 南本牧はま道路の復旧工事を視察



2月10日、党神奈川県本部の上田勇代表と三浦信祐参院議員とともに、昨年の台風15号の被害により通行止めが続く南本牧はま道路を訪れ、復旧状況を確認し、関係者と意見を交わしました。昨年の発災直後には赤羽国土交通大臣も現地を視察し、早期の復旧を指示しており、2019年度補正予算に復旧費が盛り込まれ、今年5月の復旧を目指して工事が進んでいます。

## 建設進む新市庁舎を視察

2月25日、本年6月の供用開始を目指し建設工事が進む横浜市役所の新市庁舎を訪問し、低層階のオープンスペースや議員控室、傍聴席を増やした市会本会議場などを視察しました。新庁舎の整備により、20か所以上に分散していた市庁舎機能が集約され、市民の皆さまの利便性が向上します。



## ピンクシャツデー2020

2007年、カナダ・バンクーバーのハイスクールでピンク色のシャツを着た男子生徒がいじめに遭ったのを見た先輩が、「それならば、皆でピンクのシャツを着よう!」と呼びかけ、学校中がピンクに染まりました。ピンクのシャツを着ることで「いじめ反対」のメッセージを送るこのキャンペーンはバンクーバーがあるブリティッシュ・コロンビア州知事が2月の最終水曜日を「ピンクシャツデー」と宣言したことなどから、現在は70カ国以上で活動が行われています。

2月26日の市会本会議では、全議員が運動への連帯の思いを込めて、ピンクシャツを着るなどして審議に臨みました。



# 令和2年度予算特別委員会の論戦より

健康福祉局

「障害者手帳のカード化を推進!」



齊藤 伸一(保土ヶ谷区選出)  
「大きくてパスケースに入らず携帯しにくい」等の声を受け、公明党は障害者手帳をカード型にできるような国に働きかけてきましたが、昨年、省令が改正され手帳のカード化が可能になりました。

横浜市でも令和3年度からのカード化に向けて準備していくこととなります。

そこで、「周囲から見て障害者手帳と気づきにくいカードに」、視覚障がいを持つ方からの「触って分かるカード」との声にどのように答えていくのか確認しました。

局長からは、障がい者団体との意見交換を十分に丁寧に行っていく旨の答弁がありました。



こども青少年局

「子ども家庭総合支援拠点設置に向けて前進」



木内 秀一(旭区選出)  
国の「児童虐待防止対策体制強化プラン」では、令和4年度までに「子ども家庭総合支援拠点」を全市区町村に整備することを目標に掲げています。

公明党はこれまで、妊娠・出産から子育てまで切れ目ない支援の強化、児童虐待防止の観点から早期の設置を要望していました。

今回の質疑で副市長より、設置に向けた検討を進めるとの答弁がありました。

環境創造局

「浸水リスクへの備えを強化」



久保 和弘(瀬谷区選出)  
近年の台風被害による浸水被害の激甚化を踏まえ、内水ハザードマップの改定を求めています。

局長からは、現在の内水ハザードマップは、1時間当たり76・5ミリを想定しているが、昨年観測された1時間当たり100ミリの降雨や関東地方での降雨実績なども考慮し、様々な強さの降雨で浸水シミュレーションを行い、改定作業を進めるとの答弁がありました。



建築局

「がけ地の防災対策」



高藤 真一(都筑区選出)  
現地調査を行ってきた崖地について、時間の経過で状態が変化していくことを考慮した対策を進めていく必要があることから、調査結果のカルテを定期的に更新するべきと提案しました。

局長からは、土砂災害特別警戒区域の新たな指定の進捗に応じて、カルテの追加や変更が必要な場合に再調査を実施し、計画的なカルテの更新に取り組む旨の答弁がありました。



医療局病院経営本部

「乳がん対策の推進」



安西 英俊(港南区選出)  
遺伝性の乳がん・卵巣がんの再発リスクを改善する治療である、予防切除や乳房再建手術などについて、公明党の要請により本年4月から保険適用される事となりました。

そこで、乳がん連携病院の対応を促すとともに新たな取り組みについて質問しました。

局長より、遺伝性腫瘍では、遺伝カウンセリングをスムーズに紹介できるよう、病院間の連携を促進すること。また、関係する看護師を対象に研修を行い、乳がん特有な課題解決に向けた知識・技術を身につけ、患者支援の質向上を目指すとの答弁がありました。

交通局

「中学生の校外活動支援」



高橋 正治(緑区選出)  
4月1日よりスタートした、市営地下鉄の中学生校外活動支援運賃制度は、子育て・青少年施策の一環として要望してきた制度です。

質問では、校外活動を行う中学生が、市営地下鉄を小児運賃で利用できる、人数要件を設けないため、団体競技の活動だけでなく、個人競技の活動でも利用出来ることを確認しました。



局長からは、100周年を迎える市営交通として、市営地下鉄をより身近に感じて頂くなど、大変意義があると答弁がありました。

文化観光局

「横浜美術館大規模改修事業」



望月 康弘(港北区選出)  
大規模改修が行われる横浜美術館について、これまで以上に国際的にも評価される美術館を目指すべきと質問しました。

局長からは、今回の改修で、美術館として開かれた雰囲気づくりで、より親しまれる美術館とすること、さらに、効果的なプロモーションを行い、新しい価値を創造・発信し続ける美術館として、国内だけでなく、国外においても存在感を高めていくとの答弁がありました。

